

平成18年度戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金
～要望調書 記入要領～

【地域基準】 別紙1

(1)地域経済圏の状況

- ・中心市街地の概要及び基本コンセプト
当該中心市街地の置かれている自然的、歴史的、文化的及び社会的条件、地域住民の意識、中心市街地の現状等に関する基礎的データ等の概要を記載の上、それらをどのように分析し、目標を掲げているか等の基本コンセプトを記載。
- ・各数値について、過去に実施した数値(基本計画策定時前後)と直近の数値を記載の上、その増減要因、調査主体、調査地点等を簡潔に記載。
- ・定量的・定性的要因からみた活性化の見込み
記載した各数値のうち、主要な数値における増減の要因をいかに分析し、また、近隣市町村を含む商業、産業、交通(鉄道、高速道路等)、観光、文化、大型店等の出店状況(添付資料)、関係者や住民の意識、等の定性的要因等を踏まえ、今後の活性化の見込みについて記載。

(2)中心市街地活性化基本計画と都市計画等との調和

- ・当該市町村における都市計画マスタープラン等の上位計画における中心市街地の位置づけや中心市街地活性化計画との関係、中心市街地活性化を念頭において、新たな郊外開発の抑制、まちなか居住の推進等の具体的取り組みについて、それぞれの項目において該当する箇所1ヵ所に「 」を記載し、その具体的内容を記載。なお、計画策定中及び変更中の場合については、今後の予定について記載。

(3)中心市街地活性化の取組に係る組織体制

- ・市町村における、商業部局と都市計画部局との連携体制について、計画策定や事業実施や日常的な連絡体制、定期的な会議の開催や横断組織としての「中心市街地活性化室」等の設置状況、今後の予定等も含めて具体的事項を記載。
- ・TMOにおける専門人材の確保・組織強化への取組について、SC経験者の雇用や中小企業基盤整備機構タウンマネージャー派遣制度の活用(活用日数も記載)、市町村や関係機関との人事交流、増員等、今後の予定等も含めて具体的事項を記載。
- ・関係者との連携体制について、具体的な連携のあり方、連携による効果等、今後の具体的予定等も含めて記載。

(4)中心市街地全般のマネジメントの状況

- ・ここで掲げるマネジメントとは、中心市街地活性化のプロジェクト推進に際し、現状把握を

踏まえた計画立案 (PLAN)、事業の実施 (DO)、評価検証 (CHECK) に基づく、改善 (ACTION) を構造的に実施しプロジェクトをより高いレベルにもっていく、いわゆる PDCA サイクルの概念をいう。

- ・これまで実施した主要事業について、各項目において該当する箇所1ヵ所に「 」を記載の上、状況説明ではなく、過去の行動事実(誰がどのような目的でどのように行ったか)を具体的に記載。

(5)これまでの取組に対する全体評価及び主要事業

- ・全体評価・効果については、これまでの取組が全体として具体的にどのような効果が現れており、計画策定段階における目標を踏まえ、どのように評価しているか記載。
- ・特徴的な取組については、各事業を実施する上で、当該中心市街地の特性等を踏まえてどのような工夫を行ったか記載。
- ・事業効果については、具体的な数値を用いて記載。

(6)今後実施する具体的事業

- ・事業全体のコンセプトとねらい、それぞれの事業の関連性については、これまでの取組による評価をどのように踏まえ今後の事業全体のコンセプトやねらいをどのように定めたのか。また、今後実施する個々の事業について、それぞれの事業の関連性や位置づけ (他省庁施策の活用等含む) について記載。
- ・特徴的な取組については、各事業 (特に補助対象事業) を実施する上で、地域特性や先進事例、専門家による指導助言等を踏まえどのような工夫(特徴的な取組)を行うか記載。

様式に書ききれない場合は、別紙として添付のこと

【事業基準】 別紙2 - 1

・所管経済産業局：

北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄のいずれかを記入。

・認定構想推進事業者(TMO)：

認定構想推進事業者(TMO)名を記入。

・代表者：

認定構想推進事業者における代表者名(フルネーム)を記入

・事業実施者：

第三セクター、商店街振興組合等の事業を実施する団体の名称を記入。

事業実施者が複数の場合は別紙を添付し、各事業者の概要をあわせて説明すること。

・代表者：

事業実施者における代表者を記入。

・施設整備事業費(ハード)要望額

・活性化支援事業費(ソフト)要望額

国庫補助要望額の合計をそれぞれ記入。

・事業実施者概要

以下の各項目について記載。事業実施者が複数の場合は別紙を添付し、各事業者の概要を説明すること。

名称

設立年月日

資本の額若しくは出資金又は拠出金の額

出資者又は組合員数の数

運営組織図を添付すること

・補助対象施設(事業)

施設整備事業(ハード)を実施する場合は、要綱上の補助対象施設名称を補助対象施設ごとに記入。

活性化支援事業(ソフト)を実施する場合は、「ソフト事業(支援)」と記入。

・計画認定状況等

施設整備事業については中小小売商業高度化事業計画、活性化支援事業については中小小売商業高度化事業構想等の認定状況(予定を含む)を記載。

()に、根拠となる中心市街地活性化法の該当条文を記載すること。(例:中活法第4条第5項7号)

・総事業費

補助対象事業ごとの総事業費を記入。

・補助対象事業費

総事業費から補助対象外経費を除いた補助対象事業費を記入。

施設の敷地となる土地の取得・使用・造成・補償に要する経費、及び施設整備に係る調査設計費等は補助対象外となります。

・補助事業者負担額

補助事業者の自己負担額を記入

・国庫補助額

国への国庫補助要望額を記入。

・限度額

国庫補助額が10億円に達する場合は、「10億円」と記入。

・高度化融資

中小企業基盤整備機構の高度化融資を検討している場合は融資額、検討していない場合は「無」を記入。なお、都道府県や中小企業基盤整備機構への相談の状況や事前診断の結果を示す説明書を添付すること。

地域概況

歩行者通行量、商圈人口、来客数、年間販売額の増減等の市町村や当該中心市街地・商店街の状況を説明する基本的な数値データ及び最寄り駅の乗降客数、主な観光資源と観光客入り込み数等により、中心市街地の概況を記入。

中心市街地が抱える問題点(緊急性・変化要因)

における各数値の増減や自ら実施した商業特性分析調査、消費者ニーズ調査等を踏まえ、地域における商業環境の変化や当該中心市街地・商店街が抱える課題及び当該補

助事業を緊急に行わなければならない理由を記入。

当該補助対象施設がアーケード等の改修の場合は、当該施設設置後の経過年数を明記すること。

TMOが実施している主な中心市街地活性化事業

当該中心市街地・商店街においてTMOによって計画されているもの、及び既にも実施されている活性化施策及びまちづくり関連の施策(他省庁含む)の内容及びその効果を記入。

その他、市町村や商店街振興組合等によって計画・実施されている事業で、特記すべきものがある場合は併せて記入。

事業の必要性や事業目的及びターゲットやコンセプト

当該補助事業に限らず、中心市街地または商店街活性化事業全体の方向性について、

(1)「ターゲットの確認」= どのような人を対象とした事業を行うのか

(2)「コンセプトの明確化」= 設定されたターゲットに対し、どんな方法で活性化に挑むのかといった点を明確にした上で、 における関連施策の内容及び効果とどう連携し、当該補助事業が における課題等にどう対応しているのか、事業実施によりどう改善されるのかについて記入。

また、今回の補助事業が活性化事業全体においてどのような位置づけにあるのか、といった点について説明すること。

施設利用計画(施設活用方法や周辺類似施設の状況)

整備した施設の活用方法やそれを利用して行うイベント事業等の予定を記入。

また、周辺に類似施設がある場合は、その活用状況や利用者数、及び何故新たに当該施設を整備しなくてはならないのかその必要性を記入。(テナントミックス店舗整備の場合は、中心市街地内に限らず、郊外の大型店や競合する商業集積等についても記載すること。)

国庫補助が無い場合の事業計画

当該戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金に採択されなかった場合、当該事業をどのように実施するのか記入。(例: 県・市町村単独の予算で支援予定。)

他の補助制度の活用やその他の資金調達方法についても十分に検討しておくこと。

見込まれる利用者数や販売額、通行量の増加及びその数値的根拠

や を踏まえ、当該補助事業が周辺商業集積へ与える効果を説明すると共に、利用者数や通行量、来客数、中心市街地商店街における年間販売額の増加、空き店舗率の改善といった具体的な数値目標を記入。

また、その数値的根拠となる調査及び統計等の分析方法について記入。(根拠となる資料を添付すること。)

なお、交付要綱において、本事業効果・数値目標を踏まえた事業効果の報告を義務付ける予定です。

投資効果・事業採算性等の説明。

当該補助事業を行うことによる投資効果を可能な限り具体的な数値を推計し、その数値の算出方法を解説。

また、事業の実施体制を明確にすると共に、事業実施に関する国庫補助以外の資金調達方法や、事業運営費の調達方法について記入。(別紙資金調達計画・総合収支計画・年度別資金計画を添付すること。)

【経費等明細】 別紙2 - 2

- ・活性化支援事業(ソフト事業)を実施する場合のみ記入。
- ・それぞれ該当する項目に記入。

【中心市街地活性化事業 状況説明書】 別紙3

- ・市町村が記入。
- ・担当課長名 : フルネームで記入
- ・記入者名 : フルネームで記入。また、連絡先(電話番号)も記入。

添付資料

以下の資料を添付すること。(様式任意)

都市計画マスタープラン

市町村都市計画図

中心市街地区域図(事業実施箇所及び主な集客施設を図示すること。)

中心市街地及び周辺の存する 3,000 m²以上の大型店及び商業集積の立地状況を地図上に示し、その概要を記載(大型店概要:施設名、各店舗名、施設面積、核店舗面積、開業年月日(予定も含む))。当該市町村外に存する大型店の立地が当該中心市街地に影響を及ぼしている場合については、周辺市町村を含めた地図とする。

(〇〇 に 〇〇 を落とし込むことも可)

施設完成イメージ図及び図面。

設計書及び工法比較検討資料

再開発事業に係る保留床を取得して事業を実施する場合は、

a. 当該再開発事業全体像を説明する資料

b. 床価格の算出基礎及び周辺類似施設における床価格を説明する資料

事業実施の必要性の根拠となる各種調査結果(原則として、平成14年度以降に行われたものに限る。)

テナントミックスに資する店舗設置の場合は、以下を証する資料

・施設管理運営者について

施設管理運営者(テナント管理者)を具体的に明示し、当該機関がテナントミックス事業に関して有する専門知識、実績等を説明。

・テナントミックスに資する根拠資料

予定テナントを当該施設に入居させることにより、商業集積全体の業種業態・店舗配置の適正化となる旨の根拠。周辺商店街業種業態や販売額の変動状況や消費者ニーズ調査。(原則として、平成14年度以降に行われたものに限る。)

・テナント管理運営(テナント公募、テナントの入れ替え、販売促進活動等)の方法

・テナント契約書(案)及びテナント配置図

契約書は、当該施設が中心市街地活性化を目的であること、及びそのためにテナントの入れ替えを適宜行う旨明記しておくこと。

アーケード設置やファサード整備等を行う場合

・デザインコンセプト・視覚効果等の説明資料。

なお、ファサード整備については、

・主に店舗のうち商店街の通りに面している外壁の整備に係るもの(中小小売商業高

度化事業のうち中心市街地活性化法第4条第5項第1号に基づく事業であること。)、

- ・原則として補助対象を2階部分までに限る、
- ・整備部分は補助事業者(組合等)が資産計上する、
こととする。

多目的ホールや教養文化施設等一般公衆利便施設を設置する場合

- ・周辺類似施設の概要や利用状況を説明しうる資料(図示しておくこと。)
- ・当該施設を新たに設置せねばならない具体的な理由

中小小売商業高度化事業計画認定要件に合致することを証する資料

その他補助申請事業を具体的に説明しうる資料(任意)